

11.糖尿病センター関連

臨床評価指標項目	2017(平成 29)年度	2018(平成 30)年度	2019(平成 31/令和元)年度
1 型糖尿病	46	40	54
妊娠時の糖代謝異常	52	62	62
副腎疾患	96	121	120

解説

糖尿病センターでは、はじめて糖尿病を指摘された方、これまで糖尿病の治療を受けてこられなかった方、すでに糖尿病の治療を受けていて血糖コントロールが不十分な方を対象に医師、看護師、薬剤師、管理栄養士による総合的な糖尿病教育入院を行っています。

また 1 型糖尿病の患者さんの診断、治療についても精力的に取り組んでおります。近年では入院の上、1 型糖尿病や糖尿病合併妊娠の方を対象にリアルタイム持続グルコースモニター機能*1 を搭載したインスリンポンプ*2 である SAP (Sensor Augmented Pump) 療法の導入をしています。

妊娠糖尿病の患者さんには、産婦人科と連携のもと安心した妊娠、出産を行って頂けるように、短期間入院で血糖推移の確認、看護師による生活指導、管理栄養士による食事療法指導のもと血糖測定の結果を診て、必要であればインスリン療法の導入をしています。今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため可能な限り外来にて治療を行えるようにしています。

平成 31/令和元年度の副腎疾患の患者さんは 120 例となっています。当センターでは原発性アルドステロン症を含む二次性高血圧症、また副腎腫瘍精査のための内分泌検査入院を行的確な診断に務め、腎泌尿器外科とも連携して最適な治療をできるように努めています。

*1 リアルタイム持続グルコースモニター機能

持続グルコースモニターは、皮下に刺した細いセンサーにより皮下の間質液中の糖濃度(間質グルコース値)を持続的に測定することで 1 日の血糖変動を見ることができます。

その中でもリアルタイム持続グルコースモニター機能とは、常時直近の間質グルコース値が表示され、患者さん自身がリアルタイムに血糖変動を見ることができます。

*2 インスリンポンプ

インスリン製剤を持続的に注入できる携帯可能な小型の医療機器です。